

平成30年1月31日

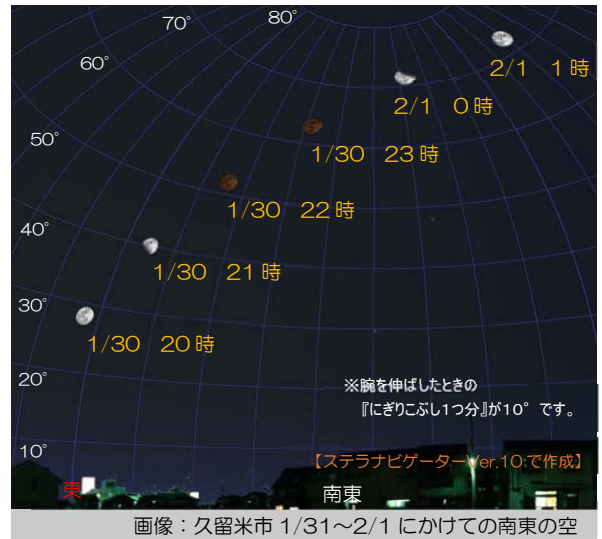
かい き げっ しょく かん さつ

皆既月食を観察しよう！

発行：福岡県青少年科学館

げっしょく つき み 月食のとき、月はどのように見える？

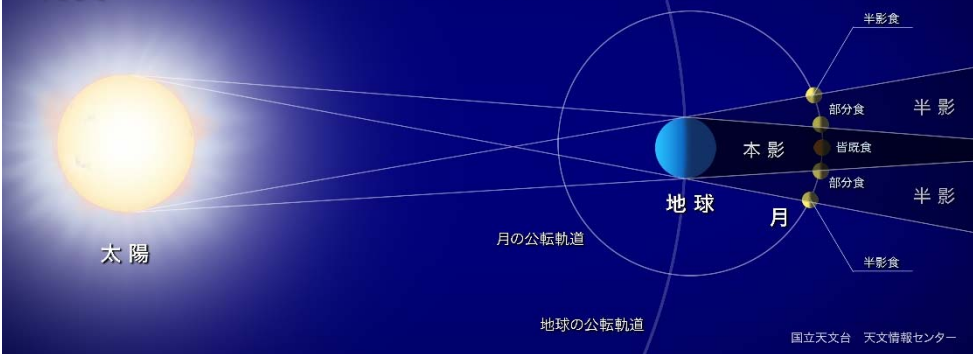
今回の月食は、日本全国で観察することができ、多くの方にとって比較的観察しやすい時刻に起こり、皆既月食の全行程が空の高い位置で起こるため、大変条件のよい皆既月食と言えるでしょう。月は、東南東の空で20時48分に欠け始め、21時51分に南東の空で完全に欠けて皆既食となります。皆既食が1時間17分続いた後、23時8分には輝きが戻り始め、日付が変わって2月1日の0時12分には元の形に戻ります。皆既食となった月は、「赤銅色」と呼ばれる、赤黒い色に見えます。夜は冷え込みますので、十分な防寒対策をして観察を楽しみましょう。



画像：久留米市 1/31～2/1 にかけての南東の空

月食のしくみ

これは説明図であり、実際の距離や大きさは異なります。



画像：国立天文台ホームページより引用

げっしょく お 月食はどうやって起こる？

太陽の光によって地球の影が太陽とは反対側にできます。その影の中を、月が通過することによって月が暗くなったり、欠けたように見えたりする現象が「月食」です。地球の影には濃い影「本影」と薄い影「半影」があり、月が影のどの位置にあるかで月食の呼び方（種類）が変わるのです。

げっしょく しゅるい 月食の種類について

月の一部または全部が「半影」だけに入った状態を『半影月食』といいます。半影は薄い影なので、目で見ただけでは月の明るさの変化は分かりにくいです。

月の一部または全部が「本影」に入った状態を一般に『月食』といい、月の一部だけが本影に入った状態が『部分(月)食』、月の全てが本影に入り込む現象が『皆既(月)食』といいます。



画像：国立天文台ホームページより引用